

# 【ねがいましては】

平成30年7月24日

KYOWA SCHOOL

第333号

「過程」

サッカーワールドカップが賑わいを見せる中、ある日のテレビ番組に本田選手が出ていました。3回連続の出場には少なくとも8年以上12年近くの歳月を要します。その間、本田選手はいくつもの挫折を味わいながら今に至っています。その中で興味深い一言が・・・「失敗は必要な過程」

思わず書き留めました。

プロサッカー選手を目指している子どもたちの数は相当なものになります。その中のほんの一握りの子どもたちが、日の目を浴びていきます。宝くじに当選するのと同じくらい、その確率は小さなものです。

本田選手と言えば成功者のひとり、誰もがそう感じているはずですが、その彼が、今の座を手にするまでに得たことばが「失敗は必要な過程」

日常私たちは、多くの情報を手にしています。いつの間にか、ある錯覚に陥っています。それは、成功者ばかりの情報が入ってくるということです。特にテレビの場合は、熾烈な視聴率獲得の中にあつての番組ですので、見て楽しい、見て感動、見て感心・・・などの効果が当たり前になります。そうすると極々自然なことなのですが、失敗者のドキュメンタリーよりも成功者のドキュメンタリー、失敗の物語よりも成功の物語になります。当たり前です。常に私たちは番組を見終わったあと満足感を得るようなTV局の編成を目にしているのです。誰でも自分の応援しているチームが負ける試合を、わかっていながら楽しそうには見ないはずですが。

さて、子どもたちはそのような環境の中で、常に「勝つ」を夢見ながら、意識しながら日々を送っています。

自然と身につけてしまう感情があります。「負けは良くない」「負けは醜い」「負けは格好悪い」・・・。

同時に子どもたちだけではなく、お母様方にも身につけてしまう感情があります。「成績が下がるは良くない」「点が悪いは格好悪い」「勉強しないは・・・」すべて成功を当たり前にした感情の発生かもしれません。

子どもたちは「負ける」を恥ずかしいこと、「間違える」を悪いことというように、あつてはならないこととして認識し始めます。それを身近にいる方の助長する一言がさらに拍車をかけます。「あんた、恥ずかしいことしないでよ。」「がんばってね」（頑張ってる悪かったら、頑張っていないことになる）・・・子はそのように考えます。やがて、間違えることが怖くなり、こころが固まり始めます。そして勉強が怖い・・・。

失敗から学ぶことの重要性、失敗から身につくことのいろいろをきめ細やかに伝えることが真の教育であるはずですが。失敗は成長に絶対に必要な過程なのです。本田選手が口

にしたことばは、子どもたちが、お母様方が、必ず知っていなければならないことのひとつだと思います。

「負けても絶対に人を恨んだりしてはダメですよ。」「成績が悪くても精一杯だったのなら、その気持ちが大切な収穫なのよ、また今度、また今度と、歩き続けようとするこころを育てようね。お母さん応援するからね。」

最近あつた、某大アメリカンフットボールのコーチが、問題を起こした選手に言っていた一言も、私の中には大きな傷として残っています。

「優しすぎるところがダメなんだ」・・・

私は体が震えるくらいに憤っていました。

優しさというものは、人が持ち得る他の生物にはまねのできない大きな宝物だと思います。家族だけではなく、友だちにも他人にも遠慮なく使うことのできる『しあわせ』を感じさせることのできる行為だと思います。手をさしのべることもそうですが、そっと見守るといふやさしさもありますし、たった一言のやさしさもあります。「バイバイ」分けられるときにするあいさつもやさしさのひとつ、また明日逢いたくなりますよね。その総称が『おもいやり』です。

反面誰もが持っている当たりの感情があります。『欲』です。勝ちたいもそのひとつです。その欲をひっくり返すと、思いやりが生まれると思っています。つまり、常に『欲』と『おもいやり』を両方抱えながら日常をすごしているわけです。

欲を捨てる方法があります。『勝つ』を自分だけに当てはめることです。相手に勝つのは結果であつて、喜ぶべきものではなく、自分に勝つことができたと思うことが本来の『勝つ』であること。であれば、人を恨むこともなく、常に他人に優しい感情を持って接することができますよね。

ここに通う子たちよ、優しすぎる人になろうね。優しすぎるからとなりの子にいつもニコッとしてあげられるものね。優しすぎるから譲ってあげられるものね。優しすぎるから家族の方たちに楽しんでもらえるよう手伝えるものね。優しすぎるから、勝っても負けても目の前の子に、ありがとうって言えるものね。

きれい事なのかもしれません。しかし、子どもたちがやがて世の中の嵐の中に身を投げるときが来たときに、やさしさという大きなバリアを身にまとい、いきいきとした生活を送れるよう応援し続けたいと思います。

さあ、目を細くしてじっと見守ってよう。